

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「献身者が起こされることを」

聖書宣教会理事 ぶどうの樹キリスト教会会員

佐藤 源

聖書宣教会は今年度3名の研修生が与えられた。人数的には少ないが、主によって召し出された特別の一人一人である。この困難な時代にあって主の召命を確信し、みことばの奉仕に献身することは主の御業である。3名の新生入生に諸手を挙げてエールを贈りたい。今年度の新生入生の中に、私が属する教会の1人の兄弟が含まれている。昨年5月に創立20周年をお祝いしたが、初めて献身者が与えられた。教会が無牧の時代に、聖書宣教会の舟喜順一先生からご指導をいただいたが、先生が、「牧師を求めるだけでなく、献身者が起こされるように祈りましょう」と話されたのを思い出す。20年目にして祈りが聞かれ、主の導きを覚え感謝すると共に、感慨深いものがある。

日本の教会が教職者の減少と高齢化に直面していると叫ばれて久しい。社会の少子高齢化が深刻の度を深める中、教会において、もう一つの少師高齢化が進行している。少子高齢化の2倍の速度で少師高齢化が進んでいるらしい。長期的に無牧となる教会が増えたり、複数の教会を牧会する牧師が増えている。このため、教職者の負担は極めて大きくなり、十分な牧会が難しくなっている。ある推計によると、2006年度時点で教職者の年齢別構成は、70歳以上が39%、60歳代が25%、50歳代が20%、40歳代までが16%となっている。現時点においては更に高齢化が進んでいると思われる。これから10年位の間に、多くの高齢教職者が退任され、無牧の教会が激増すると見られる。また、近年は働き盛りの教職者が健康を害したり、牧会に行き詰まりを覚えたりして、辞任する牧師が増えていると聞く。このような状況も教職者の減少を加速させている。

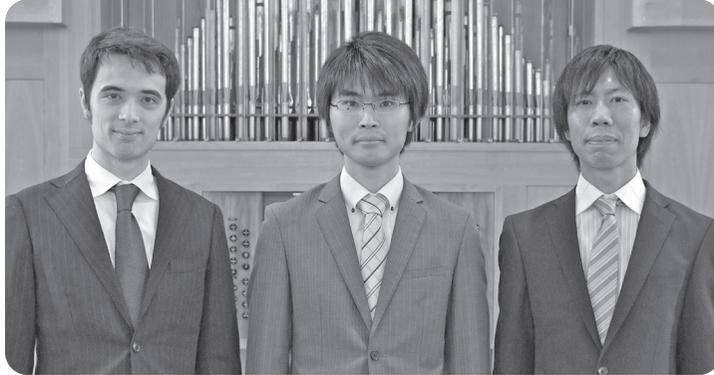
献身者が起こされることが教会の発展、福音の宣教にとって喫緊の課題である。まずは、個々の教会で献身者が起こされるように祈ることから始める必要がある。そして、祈りの中で示されたことを実行することが大事である。神学校の先生を招いて、お話を聞くのもよい。神学校をオープンデイに訪問して、理解を深めるのもよい。献身者は若い人という固定観念を捨てて、

年齢に関係なく主が召してくださる時に、応答することが大事であろう。教会で、信徒伝道者や信徒説教者を養成することも、フルタイムの献身者に繋がっていく可能性がある。献身者のための取り組みを教会の最優先の課題の1つにしていかなければならない。牧師を求める時と同じような熱心さを持って献身者や神学生のために祈る必要がある。献身する者がなくて牧師は生まれないのであるから、牧師を招くことと献身者を送ることは一対のことなのである。



教職者の養成は教会の働きであるが、個々の地域教会が神学校を持つことは困難である。地域教会の委託により、教団、教派の神学校や超教派の神学校が建てられてきた。聖書宣教会も54年前に「聖書を誤りのない神のことば」と告白する福音主義に立つ超教派の神学校として設立され、諸教会の篤い祈りと献金に支えられて、多くの卒業生を送り出してきた。しかし、近年入会者が減少してきている。今年は3名であるが、直近5年間の平均入会者は7.4名である。20年前の5年間平均が13.6名で、この間に半分近くに減少している。しかし、聖書宣教会は学校経営を行っているのではない。教会から送られてきた献身者を聖書の学びを基本に教育し、訓練するところである。したがって、教会が必要とし、教会の支援がある限り、入会者が1人になっても聖書宣教会の働きは続くのである。その上で、教会に仕える良き教職者の養成を目指し、研修生の学習・生活環境を改善する必要がある。このため、教育・研究設備の充実や専任教師の増強など、いくつかの課題に取り組んでいる。聖書宣教会を祈り支えてくださっている諸教会・諸兄弟に感謝するとともに、引き続きお祈りを願います。

最後に、聖なる主を礼拝し、福音宣教を戦っている諸教会・諸兄弟の上に、主の豊かな祝福をお祈りする。



左より 小幡、田中、森本

氏名	出身教会	奉仕教会
(聖書神学舎本科) [3名]		
小幡 壘 <small>お ばた るい き</small>	ぶどうの樹キリスト教会	日本福音キリスト教会連合
田中 秀亮 <small>た なか ひで あき</small>	東京カベナント教会	単立
森本 浩平 <small>もり もと こう へい</small>	興戸キリスト教会	日本福音キリスト教会連合
		ぶどうの樹キリスト教会
		東京カベナント教会
		東村山キリスト教会

「神様のタイミング」

小幡 壘

十年前の私は、将来キリストの働き手となるために神学校で学ぶことなど夢にも思っていませんでした。そのように、神を知らず、自分の罪の中で滅びるはずだった私を救ってくださり、さらに主に仕える者として召してくださった神様に感謝します。

救われた当初から、働き手としての召しを感じ祈ってきましたが、自分の都合ではなく神様の都合で献身への道が開かれたとつくづく感じています。結果的にそれが色々な意味でベストなタイミングになったと思います。自分の人生の中で神様の導きを強く感じる経験でした。これから、主に仕える者としての訓練が始まりますが、与えられた学びの機会を無駄にすることなく、大胆に福音を宣べ伝える者に成長できることを願っています。

祈りと具体的な支援で学びを支えてくださる母教会の牧師先生ご夫妻、兄弟姉妹にも感謝します。

主の御心にかなった働き手となれるよう、これからもお祈りください。

「神のことばの確かさに立たされて」

田中 秀亮

私は大学生の頃から、教会やキリスト者学生会(KGK)での奉仕を通して、将来、みことばに仕える働きに携わりたいという思いが徐々に芽生えていきました。卒業後の進路を模索する中で、ある方から KGK 主事として働くことを打診されました。私はこれまでの歩みを振り返り、これが主に召された道であると受けとめ、その招きに応答しました。

交わりの中で育てられ、主に感謝する6年間の歩みでした。同時に、自分自身の足りなさを知らされ、これからも伝道者として歩みを続けて良いのかと、私は主の前に問われました。ある先輩との交わりの中で、私が考えていた伝道者としての「ふさわしさ」は、働く上で用いられるものとしても、その条件ではないことを教えられました。経験や能力を超えて働く神のことばに信頼することに立たされ、主の招きに応答しました。私は、聖書宣教会での学びが、主なる神様への信頼と神のことばの確かさが深まる時となることを願っています。



後列左より 伊東、加藤、ブラッシュ、兄玉
前列左より 瀨川、菊池、浅野

氏 名

奉 仕 先

(聖書神学舎本科卒業) [5名]

伊 東 勝 哉	信愛キリスト教会	単立
加 藤 秀 典	京都めぐみ教会	日本同盟基督教団
兄 玉 武 志	宣教教会	日本福音キリスト教会連合
瀨 川 昌 彦	相原キリスト集会	単立
ブラッシュ・リチャード	St. Ebbe's Church	The Church of England

(聖書神学舎聖書科修了) [2名]

浅 野 正 己	青梅キリスト教会 (ぶどうの木コイノニア)	日本福音キリスト教会連合
菊 池 守	ぶどうの樹聖書教会	単立

「真実な主の恵みとあわれみ」

伊 東 勝 哉

主の尽きない恵みとあわれみに心から感謝します。4年間を通し、みことばの真実、祈りの力を深く教えられました。あらゆる試練を通し、主は、信仰の糧を与えてくださいました。その時は「どうして？」と嘆かずにはいられない出来事が、振り返ると大切な経験であり、主にすがり、委ねるという自分では成せない成長へと導いてくださいました。すぐには明確な答えが与えられずにもがくこともしばしばありました。しかし、主はいつも共にいてくださり、どんな試練にも脱出の道を備えてくださいました。

聖書宣教会で学んだ最も大切な二つのこと「みことばと祈り」、生涯に渡り、それに優る力はないと確信します。真実な主のご主権に信頼し、与えられた一つひとつの働きに忠実にお任せするしるべとして歩んでいけますようお祈りください。

教会の愛する兄弟姉妹、先生方、研修生のお一人おひとりの存在と祈りに支えられて歩んでこられたことを心より感謝しています。

「ただ主だけを証しする者に」

加 藤 秀 典

「彼は光ではなかった。ヨハネ 1:8a」4年生のある主日礼拝でのみことばです。この学び舎で私は、その多くの時間において自分が光になろうとしていました。「良い神学生」そしてやがては「良い牧師」になることに躍起になっていたように思います。しかし、代わりに知らされたのは、「良い」にはほど遠い罪人でしかない自らの姿でした。

この事実を知らされたこと。それは私にとって恵みとなりました。というのは、そこで私は主のあわれみと御手の大きさを実感したからです。悔い改めに導かれた私に、主は裁きではなく、こらしめの姿を示してくださいました(哀歌3)。

「彼は光ではなかった。」私はこのみことばを、自らの奉仕の心構えとして覚えたいと願います。自らに何か誇れるものを持つ必要はない。光は主ただお一人であり、私はその方をただ証しするために召された。ここに、私は奉仕者としての平安を得ています。

論文情報の整理について

図書館長 津村 俊夫

ひと昔前までは、私は図書館でコピーした資料は、自宅のファイル・キャビネットに入れて分類し、必要に応じてキャビネットから取り出して使っていました。海外の研究所に行った時には、カバンいっぱい、時には新しいカバンを購入して、コピーを持ち帰ったものです。コピー用紙は、特に重いので、持ち帰るのがひと苦労でした。

そして、キャビネットの中でどのように分類するかが、また難題でした。今、とり組んでいる論文のために関係資料を一つのフォルダーに入れてしまいますと、その資料は別のテーマの論文のために必要な時にすぐには取り出せません。一つの資料を多くの目的のために用いる為には、予め鍵語でタグを付けておくか、同一の論文の重複コピーを作成して数ヶ所のフォルダーに入れておくか、いろいろと工夫が必要でした。

しかし、今ではすべてを pdf 化して、ハードデスクに入れて、Greplin のような検索ソフトで pdf の中味まで全文検索をかけることが出来ますので、論文には[著者名(年代)論文名]だけを付け、分類しないでアルファベット順に、クラウドかハードディスクにどんどん溜めていくだけで十分です。他に Evernote のような、クラウド型のデータベース管理ソフトもありますので、色々、自分に合ったものを試してみるとよいでしょう。文献表のためだけなら Endnote のようなソフトも、今では WEB 検索の能力があり、初期のバージョンとは見違える程、強力なものになっています。

けれども、資料を整理することと、情報の中味を吟味することとは同じではありません。昔ながらに、資料をじっくり丁寧に「読む力」を養うことがもっと大事なことだと思います。

近況と祈りの課題

- 紙面でご覧の通り7名の卒業・修了者が、牧師、伝道者として主の畑に遣わされました。召してくださいる主、整えてくださる主に感謝します。
- 昨年度も、地上の歩みを全うして主のみもとに迎えられた同窓生もあれば、思いがけない苦難に直面している働き人たちもあります。主の民、主の教会の上に天来の慰めがありますように。
- 聖書宣教会の働きのための経済的な必要を、昨年度も主が満たして下さったことを感謝しています。詳細は挟込み別紙の通りです。主がそのためにお用い下さった諸教会、皆さまの上に祝福がありますように。
- 今年度の在校生 26 名という人数は稀に見る少数です。少人数ゆえの制約もあれば、充実もあります。この人数での一年間の歩みが守られるようにお祈りください。
- 教職員の健康と奉仕のためにお祈りください。支えている家族と教会も覚えてお祈りください。
- 夏期伝道実習では、山梨、愛知、大阪、香川で、4 チーム 12 名が奉仕させていただきます。キャラバン伝道のためにお祈りください。
- 昨年度 5、7、10、3 月と行われた救援奉仕活動を引き継ぎ、諸教会と祈りを合わせつつ、今年度も東日本での奉仕を続けたいと願っています。

編集後記

主の恵みをご報告し、様々な問題意識や祈りの課題をお伝えすることを許されるこのような通信があることを感謝しています。一方で、諸教会に思いを馳せて祈るにつけ、情報の不足や偏りのあることを思われます。ニューズレターや私信を頂戴するのは、いつも

嬉しいことです。祈らせていただいています。来訪くださることや招請を受けることも感謝です。ここ羽村でも、諸教会においても、主の民の、分かち合い、祈り合う交わりがさらに豊かにされることを切望して、主の導きを祈ります。(A)